

保育おおさか

平成22年2月1日 第414号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
(大阪府保育協議会)

☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

第35回保育海外研修

(団長) 齊藤和正・坂門ケ原(保育園) は1月6日から6日間の日程でオーストラリアを訪問、総勢43名が参加し、2班に分かれパースにある「エンデバーチャイルドケアセンター」と「パドバリエジュケーションアンドチャイルドケアセンター」をそれぞれ視察しました。

(2面にも記事)

エンデバーチャイルドケアセンター

エンデバーチャイルドケアセンターは、午前7時から午後6時まで、6週間から6歳までの子どもたちが在園している施設で開所20年目。自然に恵まれた地域で園庭はほとんどが芝生、砂場はビーチの砂を使い、大きな岩を配置した環境設定になっています。

個性や才能伸ばす

ディリープログラム

当地では子どもの個性を大切にし、異文化交流や地域との関わりを多くもたれています。子どもはみんな同じではないという観点から、個々のレベルにあったケアに取り組まれており、子どもをよく観察をしたうえで好

きなことを把握し、個性や才能を見つけ、集中的に伸ばすディリープログラムが作られています。オーストラリアは移民国でもあり、子どもたちはさまざまな宗教や文化の違いをもっています。異文化交流が日頃から頻に行われているのもこのためです。日々テーマ別保育をし、いろいろな

多民族の文化を 尊重する保育環境 地域との関わりも重視

—第35回海外研修 (オーストラリア)

国や先住民のアボリジニのことを学んだり、ドレアップの日があったりとさまざまなイベントが設けられていました。

フードコーディネーター

が給食差配

同センターでまず驚いたのは、施設に入るとすぐにオープンルームの調理室があったことです。

日本の保育園では考えられませんが、この調理室では、1人のフードコーディネーターが全てを任されており、1日の給食メニューを決め、離乳食やアレルギー対応も行っています。

また、子どもの保護者の職業を利用したイベントも目につきました。

子どもさんの母親が赤ちゃんの入浴するようすを子どもたちの前で見せたり、警察官の父親がパトカーで訪問したり、獣医の親に動物のことを教わったりと地域の人々が関わり、子育てをしようとする努力がされているようすがうかがえました。

子どもを日焼けから
守るサンルール

また、南半球のオーストラリアならではのサンルールがあります。毎日パソコンでUVチェック、戸外に出る際は20分前から子どもたちにSPF(紫外線防止効果)30以上の日焼け止めを塗り、首や肩まで隠れる帽子を被らないと外に出られません。時間も午前午後で各30分と決められています。



第35回海外研修参加者たち

危険回避のため、クラスごとに園庭が柵で分けられ、0歳から2歳、2歳から3歳、3歳から5歳用とそれぞれ設けられていました。

職員のポリスチェック(犯罪歴有無証明証)も厳しく、心身両面で健康の許可が出た人が保育士として働くことができません。またファーストエイド(救急救命法)の資格も必要で、定期的に講習会を開いています。

日本とは条件が全く違うものの、子どもたちのために楽しく良い環境や安心できる生活づくりを目標にしているのは同じだと感じさせられました。(旭ヶ丘学園H・N、A・S、T・E)



先日、英語の講師に訊かれたことがある。日本人は毎日除夜の鐘をつき、

正月は神社に参り、クリスマスには賑やかにパーティー、信仰心はないのかと。

確かに神仏入り乱れ、言われてみれば納得である。特に信仰心の強くない私にとってそこまで深く考えたことはなかった。

なかには信仰・宗教を自らの生きる道標としている人もいるが、大部分の日本人は習慣、またはイベントの一つとししか考えていないのではないのか。

人生においても生まれると宮参り、結婚式は教会、最後はお寺さんというパターンが多い。時と場合で頼りにするものが違う。これが日本文化の一つではないか、と先の講師に説明したが理解不能の表情であった。

さて、今の日本、どの党にこの国の舵取りを任せていいのか分からない。神頼みとならないよう政治家の皆さん、どうか国民を幸せの方向にお導きください。

(編集委員H・M)

自発性重視し年齢に合った発達を促す

パドバリーエジュケーション
アンドチャイルドケアセンター

今回の海外研修で視察したもう1カ所のパドバリーエジュケーションアンドチャイルドケアセンターは、オーストラリア大陸の西、パースの市街地から車で約30分、緑あふれる広大な公園に隣接した閑静な住宅街にありました。

アボリジニの
歴史・生活を学ぶ

同センターには、生後6週間から5歳までの乳



園庭の様子

幼児が通っています。週3日、5日間、保育時間は7時から18時までの間の7、8時間。子どもたちの興味や自発性を尊重した国の認定システムで管理するプログラムが実施されています。その中では、それぞれの年齢に合った発達が促されるよう安全な環境が提供され、遊び、学びを通して、良質な成長過程の実現を心がけた工夫がされているようです。

オーストラリアは多民族国家のため、親子のバックグラウンドを熟知したうえで情報交換が行われています。加えてロシア、中国など他の国の建国や新年の行事を一緒に祝うなど、

他国の文化を理解し尊重されているようです。先住民であるアボリジニの歴史や生活体験を学ぶ「フッシュ・タカ」(先住民の言葉で雑木林・食べ物

の意味)などバイリンガルやマルチカルチャーを取り入れているとのことでした。

自然素材かした園庭
用途別部屋割りも

同センターでは、プレイルームやアートルーム(工作専用の部屋)など用途に応じた部屋が、メインの保育室とは別に設けられ、子どもたちは自分



園庭にある砂場と日除け



アートルームにある釘打ち道具

の好きな空間で過ごすことができます。玩具や保育材料は、できるだけ人工的な素材を使用しないようにされています。園庭はそれぞれのクラスに広いスペースの専用庭があり、木や石や岩など自然素材をそのまま生かした遊具や水が流れる仕掛けで、実体験ができるよう随所に工夫がなされています。



園庭に設けられた粘土遊び



アートルームにはギターや多人種家族本も

南半球は今、真夏。園の菜園には、子どもたちが種から無農薬で育てたトウモロコシやカボチャが立派に成育していました。

また、園や家庭での出来事、活動の記録などの絵や写真、コメントについて親、子、センターのスタッフ三者が意見交換し、年間3冊程度のファイルを作成するそうです。政府から紫外線対策が義務付けられているため、子どもたちは自発的に日陰で遊んでいます。セキユリティなどについて

では、園の内外に限らず、子どもと接する立場の人は警察署が発行する犯罪歴有無証明証が必要だそうです。

元気に遊ぶ子どもたちの姿は、日本の子どもたちの姿と重なり合うものがありました。国土の広さや文化の違いはあるものの、保育の取り組み、子どもたちを思う気持ちは、どこの国でも共通するものだと感じさせられました。

(ときわ保育園
K・S、M・E)

来年度事業計画に
地域貢献事業の「明文化」を

1月19日に開催された新年互礼会でスマイルサポーター認定証の交付式が行われ、新たに305名が認定を受け、スマイルサポーターの累計は580名となりました。昨年度から泉佐野市・堺市南区・茨木市でモデル事業が進められています。保育部会では来年度以降、大阪府内、各保育園での本格的な活動を進めていきたいと考えています。そのためにも580名のスマイルサポーターを中心とした各保育園での積極的な取り組みが不可欠です。

その取り組みを支えるためには、まず「法人としての事業の位置づけ」が重要となります。多くの法人ではこの2月、来年度の事業計画を作成されますが、事業計画に「明文化」していただき、法人全体として事業を推進されるようお願いいたします。また、相談事項については、貴重な事例として各園にて記録をつけていただき、事例集やフォローアップ研修にて活用させていただきます。ご協力お願いいたします。(5面に関連記事)

箕面市 桜 保育園

地域住民と気さくに触れ合える保育環境
遊び心くすぐる“隠れ家”キャビンスペース



包丁で野菜を切る園児たち

社会福祉法人夢工房の桜保育園は箕面市の中心部から北へ、閑静な住宅地の高台を登った場所にあります。平成20年4月に民営化された保育園で、園舎を移築、定員は120名。

基本保育方針は—
◎心身の調和のとれた知力・体力づくりをめざす
◎豊かな人間性を育てる
◎自ら考え判断し、行動できる能力を身につける
広い敷地を生かしたゆつたりとした1階建て園舎は、明るくあたたかい子どもたちの「家」がコンセプト。木の素材をふんだん

に使い、ログハウスのように屋根には明かり採りがあり、太陽の光が降り注いでいます。

園には門扉をあえて作っていません。地域の住民と触れ合えるようにとの狙いで、オープンなスペースになっています。散歩する近隣の方が気さくに声をかけて通られることもあるそうです。

玄関を入ると広いホールがあり、ランチルームとしても利用されています。お訪ねした時、園児たちはクッキング中で、野菜を包丁で切り、お鍋で煮込んだ「おでん」を作っているところでした。保育室は高い天井と木の床で、大きな窓と梁が印象的です。保育室からは、デッキの床続きで隣の保育室にも行き来でき、異年齢の交流の空間になっています。

園舎の中央には、子どもたちの遊び心をくすぐる隠れ家的なキャビンスペースがあります。



ペースがあり、遊びに集中できる空間だそうです。

山田晃郎園長は民営化の際、住民や保護者との話し合いに苦労されましたが、近隣の景観に配慮した園舎の色使いや「地域の中で子どもが育つ」の理念を訴え理解を深められたそうです。行事の折、老夫婦が「来たよ」と声をかけて訪問される保育園、まさにバリアフリーです。
(編集委員 M・H)

保育園を

たずねて 398



常称寺保育園は京阪枚方市駅近くに立地しています。戦前から、地域のみなさんが農繁期に「安心して子どもを預ける」ことができるよう常称寺の第20代住職が本堂を開放、寺の娘さんたちが世話をされたのが始まりです。



今年還暦を迎えた当時の園児たち

にされている思いがよく伝わります。食育では、管理栄養士を含め担当職員が園児と保護者への啓発を積極的に行なっています。アレルギー対応食にも取り組むため、少量の食事を提供するため複数の小型コンロを備えたり、園児や職員が増加に対応するため「大量の米を自動で研ぎ炊飯する」設備を導入したり。食事提供面から保育に対する積極的な姿勢がうかがえます。



今年成人式を迎えた当時の園児たち

時代が移り、住民の姿が変わっても、この密接な関係と趣旨は地域で途切れることなく受け継がれています。保護者の孫、園児の子どもの世代へと。地域に溶け込むには大変な努力が必要ですが、常称寺保育園は創立以来の地道な努力により現在があると思われました。
(編集委員 J・F)

枚方市 常称寺保育園

「まことの保育」でつなぐ地域との連携交流
積極的な食育の工夫、保護者への啓発活動も

り。以来76年、認可されてからでも56年の歴史があります。創設以来、仏教の教えに基づき「まことの保育」と地域に密着した運営を取材しています。

参考になることを教えられました。まず在園児、子育て支援事業で参加する親子、一時保育を利用する親子のため、3回の運動会を実施されています。分けてなく子どもたちを大切に

また、取材で一番印象的だったのは、その底流に創設以来脈々と受け継がれている地域との連携交流の歴史があること。

保護者とは、保護者会やクラス懇談会、「保育参加」などで職員との意思疎通を図り、卒園後もOB会が園を応援される関係ができあがっていることです。

八尾市 母木保育園

大樹に見守られ、裸足保育で体力づくり
創立40年、地域福祉の拠点の役割担う

昨年創立40周年を迎えた母木(おもものぎ)保育園は、八尾市の南東部、柏原市との境、恩智南町に位置しています。

この地域の歴史は古く、神武天皇が戦いの際、大樹に身をひそめて難を逃れたことから、母の如き恩ある木として「母木」と名づけ、この里を「母木里」と呼んだという言い伝えがあります。園名はその故事にちなみ命名されたとのことです。園庭にも大きな樹木があり、元気に遊ぶ子どもたちを毎日、優しく見守っているようです。

周辺は自然に恵まれ、恩智神社や恩智城址など地域の方はじめ園児たちの散歩コース。また、信貴山へのハイキングは毎年、年長組の恒例となっているほどです。

日常の体力づくりでは、昭和58年から「裸足保育」を実施されています。

「裸足で歩くことがいかに大切か」「土ふまぜは第二の心臓」を原点に登園後、靴と靴下を脱いで子どもたちは園庭に一直線。真冬でも頑張る一人ひとりに、杉本園長先生から表彰状が贈られるそうです。保育目標の「元氣な

明るい子」「考えて行動できる子」への成長を願って今後も続けられるとのこと。

一方、園庭開放や親子教室をはじめ、学童保育にも率先して取り組み、子育て支援、育成支援にも大きく貢献されています。その成果の一つに、社会人となったあと結婚、出産、子育てと続き、親



園庭にある大きな樹木

子で「母木保育園の卒園児」という方も増えています。当然、保護者の理解や協力度も高く、よきパートナーの関係が続いているようです。

これから保護者や地域社会と力を合わせ、地域福祉の拠点としての役割や子どもたちの最善の幸福のために努力する保育園でありたいと、園長先生は熱く語られていました。

(編集委員 S・S)



保育園を

たずねて 399



明るいレンガ色のタイルとコンクリート打ちっ放しが印象的な園舎が目印。日の出さなだやま園は大阪市天王寺区の真田山公園の南側に立地しています。定員は85名(0〜5歳児)。平成20年7月にオープンしたばかりの新しい保育園です。この地域は大阪市のほぼ中央、市内有数の文教地区でも知られ



ています。設置主体である社会福祉法人日の出学園は、同園の他にも隣接の生野区に日の出学園保育所(定員300名)と日の出異西園(定員83名)を運営されています。また、天王寺区玉造にある日の出たまつくり園(定員30名)は、当初、日の出異西園の分園でしたが、日の出さなだやま園の設立で転籍し、同園の分園となりました。



レンガ色の園舎

理事長の桑田日出男先生によると、「当園は市街地にあるため、十分な園庭を確保できず、真田山公園や屋上遊戯場、遊戯室を利用していました。しかし、去年の7月に、狭いながらも念願の園庭を確保することができ、保育活動の幅が広がるようになりました」と喜びの表情を浮かべておられました。

(編集委員 Y・K)

大阪市 日の出さなだやま園

有数の文教地区に立地、念願の園庭も確保
絵画や音楽、英語は専門講師が指導

ています。

保育内容としては、老人ホーム訪問、稲苗植え、すもも大会などさまざまな体験行事が特色。さらに絵画・造形、音楽、英語など専門講師による指導にも取り組まれています。

これらの取り組みを通して、園児たちが感性や集中力、仲間での一つのことを成し遂げる達成感などいろいろな「思い」を育み、人間として、もっともっと成長していける礎を築く手助けになりたい、と園長先生は述べられ、

「園児、保護者、保育者みんなで分かち合える保育を目指したい」とも強調されました。

盛大に保育部会新年互礼会 新たに305人を 「スマイルサポーター」認定

保育部会新年互礼会が1月19日、ホテルプリムローズ大阪で開催された。来賓として大阪府議会議員の朝倉秀実議員、若林まさお議員、永

野孝男議員、浦野靖人議員のほか、大阪府、堺市、東大阪市の方々にご臨席いただきました。この日は「スマイルサポーター」の認定証交付も行われ、池田保育園（寝屋川市）の上野友子さんが代表で受領されました。今回の認定者は305人。今後、スマイルサポーターとして活躍を期待いたします。



認定証代表受領の池田保育園の上野友子さん



側転につなげる逆立ちの練習

の、技術の習得ができる。例えばすべり台を滑る、鉄棒で前回り、うんていに10数えるまでぶら下がる、色を5色触ってくるなど。園庭はあまり広くないわりに遊具が多いのですが、友だちや遊具にぶつからないよう工夫して走ることでのこなしも上達します。



大好きなドッジボール

堺東保育園では、5歳児のスポーツ指導を外部指導員に依頼し、週2日、各1時間行っています。「楽しく体を動かし汗をかく」を目標にプログラムを作成し取り組みま

す。4月から基本的な運動に加え、運動会で披露する竹馬、逆上がりの練習が始まります。竹馬は足の親指の皮がむけても、倒れて擦り傷ができて痛みをこらえ

運動会といえば、堺東保育園では毎年「すずめ踊り」を行います。「すずめ踊り」とは400年前、仙台城の完成移転式のお祝いの宴で、城主・伊達政宗公の前に泉州堺の石工が即興的に

踊って見せたのが始まりといわれる堺とゆかりの深い伝統芸能です。担任が独自に振り付けを考え、動きや隊列を工夫し仕上げます。その中に側転を取り入れています。側転の際の倒立状態が難しいのですが、怖い

のもこの頃です。年中を通して行うのは走ることを中心に「考えながら動くこと」。凍り鬼の凍り方を変化させる、鬼ごつこのタッチは場所

し経験させるのも特色の一つ。サッカーボールに見立てた柔かい物でドリブル、シュートしたり、風船やビーチボールでバレーボールに取り組んだり。バトミントンはうちわと風船、野球はプラスチックバットと柔かいボールなどを使って活動します。時間的には満足できるほど練習はできませんが、何事も経験です。

まど

41



保育の

堺東保育園 — 堺 市

シリーズ 園児の体力づくり

運動会に側転取り入れた「すずめ踊り」 5歳児にはスポーツ指導員がサポート

頑張ります。1段に乗れるようになる2段、3段と挑戦。そのうち走り、乗り、ジャンプ、片足立ちができるようになります。運動会当日、音楽に合わせて演技できるのはその成果でしょう。

逆上がりはちよつといへんですが、うんていや登り棒などを併用し、腕の力をつけながら運動会までの半年間一生懸命練習します。

運動会といえ、堺東保育園では毎年「すずめ踊り」を行います。「すずめ踊り」とは400年前、仙台城の完成移転式のお祝いの宴で、城主・伊達政宗公の前に泉州堺の石工が即興的に

園児たちが大好きなのはドッジボール。ボールの数を増やしたり、先生も一緒に入ったり、工夫しながら取り組んでいます。子どもたちは大人顔負けの真剣な表情。いつも元気で楽しく体を動かしている堺東保育園のさくら組（5歳児）です。



うちわと風船のバトミントン

ブロックだより

河内

パターン組み合わせたリズム遊びを学ぶ —保育士研修会

『音楽リズム』をテーマにした保育士研修会が、東大阪市民会館で開催(平成21年12月14日)、41名が参加しました。

研修会では『リズム遊び』と題し東大阪ヒマワ

リ保育園が担当。リズムのけいことしていろいろなリズムパターンの譜面をもとに、参加した保育士とともにリズム打ちを手拍子で表現。

リズムパターンの組み合わせを左手、右手、足を分けてリズムのしりとりに遊びのようになたきながら、アンサンブル演奏の発展したリズムのけいことになりました。



研修会の様子

繰り返して聞いているうちに馴染みの曲となつてしまふ不思議さを感じられました。子どもたちには、リズムパターンを言葉に置き換えるリズム打ち

が伝わりやすいとのこと。日頃の遊びの活動の中にリズム遊びが楽しく取り入れられているということでした。

続いて手作り楽器が紹介されました。グラスに水の量を調節して入れ、スプーンでなぞってゆく楽器が披露され、きれいな澄んだ響きを奏でていました。最後に参加した保育士全員でリズム打ちの総げいこ。一つの輪になつてリズム演奏が美しく響く有意義な研修会となりました。(K・O)

事務局からのお知らせ

益々便利になつた「よい子ネット」

の活用を!

平成21(2009)年10月1日から新しく生まれ変わった「よい子ネット」はクラス別にグループ分けが可能となり、特定の保護者に向け園からお知らせなどにも活用いただいています。

また、園から配信したお知らせメールも開封確認機能により、メールを閲覧していない保護者を特定し、個別に連絡するなどが可能になりました。

台風による休園など保育園から保護者に緊急連絡が必要なとき、よい子ネットを使い一斉にメールでお知らせ、開封確認を行うことで、メール未開封の保護者だけに連絡することができ、より短時間で簡単に保護者への周知が行えます。

【申込方法】 絵画の場合は原本をお送り下さい。なお、写真についてはメールでデータをお送り下さい。現像したものでも受付いたします。

【送付先】 大阪府社会福祉協議会(住所) 〒542-0065 大阪市中央区中寺1丁目1番54号(T E L) 06-6762-9001 (E-Mail) kimura.yukari@osakafuskyo.or.jp

保護者向けチラシ、よい子ネットの操作マニュアルなどは左記URLからダウンロードできます。

4月からの新年度スタートに向けますます便利になつたよい子ネットを是非活用ください。

【http://osaka.yoiko-net.jp/yoikonet/client/home/showMenu.do】

発行所
大阪市中央区中寺1丁目1-54
大阪府社会福祉協議会
保育部 協会
大阪府保育協議会
TEL (06) 6762-9001
発行人 男 正
編集人 永 藤
齊 藤

旬

建国記念日は国旗を掲揚しよう
忘れ難い祖母の里の岩海苔・
デバ地下で見つけた
半助は鍋が最高!

まい上巻きの店があるが、一度食中毒に遭つてから怖くて買う勇気がない。余りに売れるので旨さの元である卵のうす巻きの外注したらサルモネラ菌が運悪くこの日に職員会議で遅くなるので25本買つたらこの始末。上下一胃の何とも言えない悶えには参る。寿司は止めて海苔に。海苔は和食に付き物。パリパリもいいが佃煮も旨い。なかでも岩海苔は歯ごたえが違う! 祖母の里(越前)から送

られてきた岩海苔の感触は忘れ難い! 最近では佐渡産を酒・味噌・溜り醤油で。フアンが職員以外にも増えて、たまに請求されることも。ん! 味の判るお方やなあと、にんまり。

先日デバ地下で、半助(うなぎの頭)を見つけた。店員によると、「皆さん、これ何? どうして食べるの? と聞きはります」2パック買い、土鍋に半助・焼き豆腐・ねぎ、薄口で味付け、コラーゲンたっぷりのだしが出る。仕上げはうどん・モチでも入れたら最高だ。安い! うまい! 風邪の予防にも効きますぞ!

(N・H)